

発掘された京都の歴史 2017



本とともに生きる ~道具のいまむかし~



展覧会開催にあたって

昭和57年から開催しておりました「小さな展覧会」は、本年から府民の皆さまをはじめ、多くの方々に埋蔵文化財への興味や関心を持っていただき、遺跡や遺物に親しんでいただくことを目的に、展示内容を拡充し、装いも新たに「発掘された京都の歴史」として、京都府教育委員会と公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センターの共催で開催することとなりました。

本年の展覧会では、昨年度に京都府内で実施された発掘調査の成果を出土遺物や写真パネルなどによって展示するとともに、企画展示として、「木とともに生きる」をテーマに、主に古墳時代の木製品を通して、当時のくらしや道具を身近に感じていただけるよう工夫をしています。

展示に当たっては、よりわかりやすく、親しみやすくなるように心がけましたので、古の世界 をお楽しみください。

むすびに、今回の展覧会に御協賛をいただいた向日市文化資料館をはじめ、様々な御協力を賜った各関係機関に対し、深く感謝いたします。

平成29年8月

京都府教育委員会
公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター

凡例

- 1 本図録は、「発掘された京都の歴史 2017 木とともに生きる~道具のいまむかし~」(向日市文化資料館:平成 29 年 8 月 5 日~ 8 月 27 日、京都府立山城郷土資料館:平成 29 年 9 月 9 日~ 9 月 24 日開催)の展示に伴うものです。
- 2 展示資料は、京都府教育委員会・公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター及び府内各機関が主として平成 28 年度に発掘調査や整理作業を行った遺跡・遺物を対象としました。
- 3 資料調査・図録作成・展示、資料及び写真借用にあたっては、次の各機関から御協力をいただきました(順不同・ 敬称略)。

京丹後市教育委員会、与謝野町教育委員会、宮津市教育委員会、京都市、公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所、京都市考古資料館、公益財団法人向日市埋蔵文化財センター、長岡京市教育委員会、公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター、大山崎町教育委員会、宇治市、宇治市教育委員会、城陽市教育委員会、井手町教育委員会

4 裏表紙の展示遺跡位置図には、本図録で解説していない展示遺跡を含んでいます。

(表紙写真 城陽市下水主遺跡扉状木製品出土状況)

企画展示:木とともに生きる~道具のいまむかし~

第1部 農業の道具 一耕すー

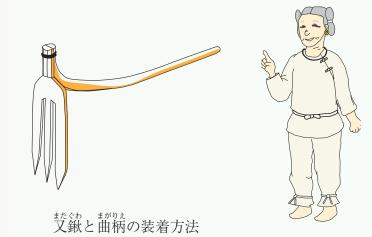
弥生時代になって水稲耕作がはじまると、いろいろな農具が使われるようになります。例えば、土を起こすための鋤や耕すための鍬、土を平らにするための横鍬など、それぞれの作業の用途によって使い分けられていました。また、収穫後にコメの脱穀や堅果類の加工などを行う臼、杵、横槌など、様々な農具が生み出されました。これらは、季節にあわせて、コメ作りや畑作など、多様な作業をおこなっていたことが背景にあるのでしょう。現在の農具と同じように昔もいろいろな農具がありました。

一方で、昔の農具は、現代の農具とほぼ同じ形をしているものもあります。これは、使いやす さの点では、あまり改良の必要がない形であったとも考えられます。

これらの農具には、カシ類などの堅い木を選んで作られていました。木の特性をふまえて、使用目的に応じて樹木を使い分けており、昔から木とともに生きてきたことがわかります。



姿をあらわした数多くの木材 (城陽市下水主遺跡)







田畑を耕すのに使われた又鍬(左:木津川市瓦谷遺跡、右:城陽市下水主遺跡)



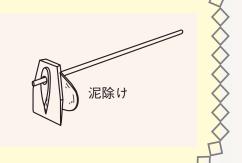
藁打ちや豆打ちに使われた横槌(城陽市下水主遺跡)



平鍬とセットで用いられた泥除け (城陽市下水主遺跡)

消えた農具

今では使われていない農具の部材に泥除けがあります。泥除けは柄に通し、鍬先の後ろ側に付けられていました。これは、作業中に泥はねで汚れるのを防ぐための道具です。弥生時代から古墳時代の鍬には泥除けが付けられており、全国的に普及していました。



第2部 生活の道具 一住むー

木は、農具にだけ使われたのではなく、椅子や机などの調度品、舟や櫂などの移動道具、食物を盛る食器、住居の建築部材などに使用されました。現在でも、木は、食器や家具、住宅などに幅広く使われており、わたしたちの生活と密接にかかわっています。

家具



_{ぎょろうぐ} 漁撈具

一本の木から作り出された椅子 (京丹後市古殿遺跡)



舟を漕ぐための櫂 (城陽市下水主遺跡)



魚を捕るための網に使った網枠(城陽市下水主遺跡)

建築部材

古墳時代の住居や倉庫は、木造の竪穴の建物や掘立柱建物でした。発掘調査では地面に掘られた柱穴が見つかり、木造の建物本体は残っていないことが多いため、建物を復原する手がかりとして、同じ時代の建築部材や遺物に描かれた絵などが使われています。



溝から見つかった扉と考えられる建築部材(城陽市下水主遺跡)

火をおこす

灯り、暖房、調理など、人の生活には火が欠かせません。昔は火を起こすのも木の 道具を使いました。

昔の人は、切り込みを入れた板の上に木の棒を回して摩擦熱を利用して火をおこしていました。現代と違い、火をおこすことは昔の人にとっては一苦労でした。



火鑽臼(京丹後市古殿遺跡)



第3部 道具ができるまで 一作る一

木製品を作るためには、材料である木材を選ぶことから始まります。

次に、森から伐採してきた樹木(原木)を目的の製品に作るため、大まかに加工します(原材・製材)。大まかな加工の際に、鍬先などの板状の製品であるならば、分厚い平らな材をつくり、斧や農具の屈曲する柄は幹と枝の部分を使用します。容器などの木を刳り貫いて作るものは、胴切りした丸太をそのまま利用する場合もあります。

発掘調査では完成品である木製品のほかに、製作の途中である未製品が見つかります。未製品からは木製品を作っていく作業のようすを知ることができます。

また、木製品の樹木の種類を調べると、硬さや柔らかさなどを踏まえて木を選んでいることが

わかります。昔の 人々が木の特質を深 く知った上で、製品 を作っていたことが わかります。

木の道具は昔の 人々の暮らしや高い 技術を今に伝えてく れます。



底に4つの脚を削り出した容器(城陽市下水主遺跡)

木製品を修理する

この容器(槽)には小さな穴が空けられています。また、取手の部分には三角形の切り込みが入っています。これらは容器が半分に壊れた後におこなった修理の跡と考えられます。穴に樹皮を通してつなぎ合わせ、取手の部分を縛って修理したと考えられます。



槽(城陽市下水主遺跡)

速報展示:発掘された京都の歴史 2017

第1部 役所と村

まんこくじ 安 国 寺 遺 跡 (宮津市中野安国寺、宮津市教育委員会調査)



大きな柱穴と土器の検出状況 (写真:宮津市教育委員会提供)



参考:中野遺跡出土の輸入陶磁器 (写真:宮津市教育委員会提供)

安国寺遺跡は宮津湾に面した沿岸 部の扇状地上に立地します。今回は、 遺跡の範囲や内容を明らかにするこ とを目的として発掘調査がおこなわ れました。

今回の発掘調査では、一辺1mほどの大きな柱穴が多く見つかったことが注目されます。

調査の範囲が狭いため、正確なところは不明ですが、国府など、古代の官衙に関連する建物の柱穴である可能性があります。

大きな柱穴のほか、中国産の陶磁器なども見つかったことから、ここが丹後国府である可能性が高くなってきました。今後の調査が注目されます。

安国寺遺跡の所在する府中地区は、史跡丹後国分寺跡や丹後国一宮である籠神社、印鑰(国の印と倉庫の鍵のこと)を祀った飯役社など、古代の重要な寺社があります。また、遺跡の近くには中国産陶磁器が出土した中野遺跡や難波野遺跡なども所在しています。



安国寺遺跡周辺の遺跡と地割 (A~Cの3方向の地割が確認できます)

国府とは

国司が政務を執っていたところを「国府」と呼びます。国府には、中心となるす。関府には、中心となるでという建物を配置し、その周囲を塀などで囲った「国庁」がありました。その周囲には役所(官衙)や倉庫(正倉)などが建てられていました。

いたなみ **板 列 遺 跡** (与謝郡与謝野町字岩滝小字板列、与謝野町教育委員会調査)

板列遺跡は、宮津湾から天橋立によって分けられた阿蘇海沿岸の平野部 に立地しています。

今回は、遺跡の範囲や内容を確認するための発掘調査が行われました。 その結果、縄文土器や弥生土器とともに、弥生時代の銅でつくられた矢じり (銅鏃) が出土しました。

今回の調査で出土した銅鏃はとても珍しく、銅の色が輝いていることが 注目されます。



銅鏃(写真:与謝野町教育委員会提供)

千代川遺跡は、亀岡盆地北部の大堰川右岸にある遺跡です。弥生時代の墓や、7世紀後半頃の桑寺廃寺などの遺構が見つかっていますが、特に丹波国の国府の推定地の一つとして注目されてきました。

今回の調査では、古代の掘立柱建物2棟が見つかりました。建物1は南北方向に長く、建物2は東西方向に長い建物です。そのほかの時代の遺構としては、飛鳥時代以前の土坑、中世の溝・柱穴・土坑が見つかりました。

また、亀岡市教育委員会の調査で は東西方向の古代の溝を検出し、多 くの土器が見つかっています。

出土遺物には、須恵器や土師器などがあり、平成27年度の調査ではまとめて埋められた状態で出土しました。

千代川遺跡では、過去の調査で遺跡内の各所から古代の掘立柱建物が見つかっています。今回の調査で、さらに広い範囲に古代の建物があることがわかりました。これらの建物が丹波国府に関連するものかどうかは、今後の調査に期待されます。



掘立柱建物の検出状況 (手前が建物 2、奥が建物 1)



遺物が見つかった状況

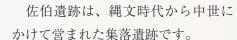
なえき 佐 伯 遺 跡 (亀岡市薭田野町佐伯、公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター調査)



上空から見た佐伯遺跡(南から)



真北に方位をそろえた掘立柱建物



平成28年度の調査では、奈良時代 の向きを真北にそろえた掘立柱建物 や井戸などが見つかりました。

また、緑釉陶器や硯(蹄脚円面硯・ 転用硯)、「正福」と書かれた墨書土 器などが見つかっています。当時の 稀少な器や文字を書く道具、文字が 書かれた土器などが出土したこと、 向きをそろえた建物跡が見つかった ことなどから、公の施設があったの かもしれません。

なお、平安時代には、平安京から たただのくに 丹波国を通り、日本海側へと向かう 「山陰道」が佐伯遺跡の近くを通って いたという説もあります。当時、交 通の要衝にある重要な集落、あるい は施設だったのかもしれません。

硯の種類

硯はその形から何種類かに分けられます。円形の硯を円面硯、方形を 方形硯、平面が「風」字の構えをし



蹄脚円面硯

「正福」と書かれた須恵器杯

ているものを風字硯、鳥・亀・獣などをかたどった硯を形象硯といいます。

また、円面硯には脚が付きますが、脚の形状や数によって、三足・ 多足($5\sim6$ 個付くもの)・獣脚(動物の足を模したもの)・蹄脚(ひ づめを模したもの)・無脚(足がつかないもの)に細分されます。

そのほかに、日常で使っていた土器や瓦などを使った転用硯があります。

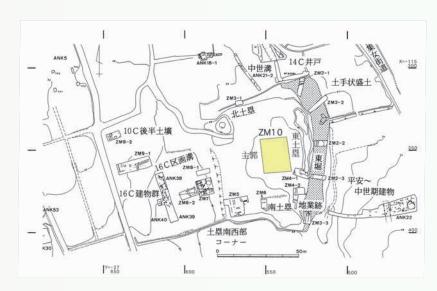
奈良時代の須恵器の杯の裏側に墨で書かれており、「正福」と読めます。 「正福」とはどういった意味かわかりませんが、吉祥句(めでたいときに使う語) の可能性があります。



主郭内遺構検出状況(写真:公益財団法人向日市埋蔵文化財センター提供)

物集女城跡は西側の丘陵から広がる扇状地上に立地します。これまでの発掘調査などで、南北約75 m、東西約70 mの方形単郭式の城館であることがわかりました。遺構としては、現在も残る東土塁・東堀・北堀のほか、南土塁・西土塁などが見つかっています。これらの発掘調査の結果、土塁の基底部で見つかった土器から、物集女城跡の造営が15世紀後半であることもわかりました。

今回の調査は、物集女城跡の中心部分 (主郭) の構造を明らかにするために実施しました。主郭内側の規模は南北45m、東西35~45mと推定され、区画施設や土坑(ゴミ捨て穴)、柱穴などが見つかりました。出



物集女城跡調査区配置図 (図面:公益財団法人向日市埋蔵文化財センター提供)

土遺物には、15~16世紀の土師器や陶器、瓦質土器、青磁、釘などがあります。

主郭内部の調査は今回が初めてで、物集女城跡にかかわる遺構・遺物が見つかり、主郭内の構造を明らかにする手がかりを得ることができました。

第2部 都市





左から堀・犬走・土塁の基礎部分 (写真:公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所提供)

御土居の復原図(森島康雄氏作図を一部改変)

御土居とは、豊臣秀吉によって造られた京都のまちをぐるりと囲む土塁と堀のことです。外側には堀が設けられていたので、「御土居堀」とも呼びます。今回の調査では、土塁の基礎部分と、その西側で犬走りと堀が見つかりました。 土塁の大半は後世に壊されて失われていました。また、御土居の下から石組みの溝が見つかりました。この溝が作られた詳しい時期はわかりませんが、御土居の外側へ水を出すための排水溝と考えられています。

・ うじがわたいこうづつみ 史 跡 宇 治 川 太 閤 堤 跡 (宇治市莵道丸山、宇治市調査)



堤の石出しの検出状況 (写真: 宇治市提供)

史跡宇治川太閤堤跡は、宇治橋の下流、宇治川右岸に築かれた安土桃山時代の治水遺跡です。南北400mにわたって石を積み上げた護岸設備と、川の流れを制御するための石出しや杭出しが見つかっています。

石出しは、水流を制御するためのもので、これまでに4か所で見つかっており、今回は、そのうちの1か所を調査しました(写真中央の高まり)。石出しは、川底から上面までの高さが3.5mにもなります。その先端は、洪水のため大きく壊されており、その後、川砂によって埋没し茶畑へと移り変わるようすがわかりました。

平安京左京一条三坊二町跡

(京都市上京区下長者町通新町西入ル藪ノ内町、 公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター調査)

調査地は、京都府庁のすぐ近くに 位置します。調査の結果、平安時代 から江戸時代に至る多くの遺構・遺 物が見つかりました。遺構は、大き く4つの時期に分かれます。最も新 しいものが幕末の京都守護職上屋敷、 少し古いものでは江戸時代初頭の大 型土坑(いわゆるゴミ捨て穴)、室町 時代の堀、一番古いものでは平安時 代から鎌倉時代までの溝や土坑など が見つかりました。



調査地全景

宝の詰まった大きなごみ穴

江戸時代初めごろの、ごみ穴と考えられる大型の土坑が、南北方向に連なって見つかりました。土坑の中からは、織部が焼・志野焼・瀬戸破・唐津焼・伊万里焼などの国産陶磁器とともに、朝鮮製、中国製、ベトナム製の陶磁器などが見つかっています。茶器などの嗜好品も多くあり、住んでいた人々の華やかな生活のようすがうかがえます。

大規模な堀

室町時代の東西方向の堀で、見つかった長さは約70m、幅は約5 mで、深さが約3.5 mもある大きなものです。調査区の北側を通る下長者町通(鷹司小路)と平行してまっすぐに伸びていました。堀の規模や年代から、戦国時代に防御のため上京を囲ったいわゆる「惣構」の堀の可能性があります。



惣構の堀とたくさんのごみ穴

平安京右京七条一坊七町跡(京都市下京区朱雀分水町、公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所調査)



皇嘉門大路の東築地塀跡検出状況 (写真: 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所提供)

今回の発掘調査では、皇嘉門大路 の路面や東側溝と、坊とよばれる都 の土地区画を囲む築地塀(写真中央 の高まりが築地跡)が見つかりまし た。

皇嘉門大路は、現在の七本松通に あたります。平安宮の皇嘉門に通じ ていたことからこの名がつけられて います。

皇嘉門大路の東側溝では、銭貨や馬の骨、果物の種、土器などが見つかりました。平安時代におこなわれたお祀りやまじないに使われたと考えられます。

史 弥 長 岡 宮 跡 (向日市鶏冠井町、公益財団法人向日市埋蔵文化財センター調査)



大極殿院の西面回廊跡(写真:公益財団法人向日市埋蔵文化財センター提供)

今回の発掘調査地は、段丘の中ほどに位置し、長岡宮の官衙復原では、 大極殿をめぐる回廊(大極殿院)の 北西部に当たります。

今回の発掘調査では、大極殿院の 西面回廊の基壇の凝灰岩を抜き取っ た跡が見つかり、初めて西面回廊に 関する遺構が見つかりました。

また、これまでの調査成果と合わせると、西面回廊の基壇幅が8.3 mで、北面回廊の基壇幅と同じ幅であることがわかりました。

このほか、大極殿院北面回廊からは、礎石を据えるための穴や凝灰岩を抜き取った跡も見つかり、大極殿院の大きさや柱の間隔などの構造を明らかにするための貴重な成果が得られました。

まおやまざきかわらがまあと 史 跡 大 山 崎 瓦 窯 跡 (乙訓郡大山崎町大山崎、大山崎町教育委員会調査)



5号窯の検出状況 (写真:大山崎町教育委員会提供)

史跡大山崎瓦窯跡は、平安京の造営に伴う瓦を生産していた遺跡です。今回、史跡整備に伴う発掘調査を行い、新たに11・12 号窯を確認するとともに5 号窯の全面調査を行いました。

今回の調査により、規模・規格の統一された瓦窯が整然と配置されていたことがわかりました。こうしたあり方から、平安京の造営にかかわって、大量の瓦を計画的に生産していたようすを知ることができます。

史跡大安寺旧境内附石橋瓦窯跡(綴喜郡井手町井手石橋、井手町教育委員会調査)

石橋瓦窯跡は、木津川の支流、玉 川右岸の段丘崖に位置します。

これまでの発掘調査では、3基の 窯跡と、失敗した製品や窯から掻き 出した灰などを捨てた灰原、窯の背 後に設けられた周溝などを確認して います。出土した軒瓦には平城京に あった大安寺の軒瓦と同じ笵で作っ たものがあることから、この窯で大 安寺の瓦を焼いていたようです。

今回の発掘調査では、推定4号窯の周溝の一部と灰原を確認し、大安寺と同じ笵で作られた軒瓦が見つかりました。



上空から見た石橋瓦窯跡 (写真: 井手町教育委員会提供) 赤枠は、史跡の範囲

史跡恭仁宮跡(山城国分寺跡) (木津川市加茂町、京都府教育委員会調査)

恭仁宮は、天平12 (740) 年に聖 武天皇により造られた恭仁京の中心 部です。

今回の調査は、朝集院を中心とす る周辺を発掘調査しました。

朝集院は官人が儀式の際に待機す るところです。今回の発掘調査では、 建物である朝集殿は見つかりません でしたが、朝集殿を囲む塀の北東角 が見つかり、朝集院の四隅の位置が 確定しました。また、一直線に並ぶ 柱跡の間隔を測ったところ、朝集院 は一尺の長さが 29.7cm で設計され ていたことがわかりました。



朝集院の北東角の検出状況

おかだくに 岡田国遺跡 (木津川市木津馬場南、公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター調査)



直交する道路と整然と配置された掘立柱建物群



掘立柱建物群と井戸の検出状況

岡田国遺跡は、丘陵部の縁辺、木津川の支流である井関川の氾濫原に立地しています。今回の調査では、奈良時代の直交する道路2条と、掘立柱建物6棟、井戸1基などが見つかりました。

『続日本紀』には、恭仁宮とともに、恭仁京についての記載がありますが、詳しいことはわかりませんでした。今回の調査地は、歴史地理学の研究で推定された「恭仁京」の右京域に当たります。

今回見つかった遺構の配置は、平城京などの都城遺跡にみられる遺構の配置とよく似ています。これまでほとんど何もわからなかった「恭仁京」を考える上で、重要な手掛かりが得られました。



「越後」と墨書された須恵器

『越後』と墨書された須恵器

井戸からは、「越後」と書かれた墨書土器が見つかりました。「越後」とは、 現在の新潟県の旧国名ですが、人名などの可能性もあります。この土器は、 その形から、「越後国」で作られたものではなく、近畿地域で焼かれた須 恵器に「越後」と書かれたと考えられます。

荷物はどこへ?―道路の轍痕―

岡田国遺跡の道路跡からは、車の轍の痕跡が見つかっています。轍の幅は、最大で約 1.5m で、車輪の幅が狭いことから、荷車の轍と考えています。

遺跡内で見つかった道路がどこへ通じていたかはわかりませんが、荷車や人々の往来があったよう すをうかがうことができます。

第3部 墓

とうこうじこふん 東 光 寺 古 墳 (舞鶴市字京田小字東光寺、公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター調査)



横穴式石室検出状況 (供えられた土器が奥に見えます)

東光寺古墳は、古墳時代後期に築造された、直径約15mの円墳です。全長約4.8mの横穴式石室が見つかりました。石室は、遺体が埋葬された玄室の片側が広く作られた「片袖式」と呼ばれる構造(写真の奥側の空間が向かって



横穴式石室から見つかった古墳時代後期の土器

右側に少しだけ広くなっています)で、玄室の奥側と袖部分に土器がまとまった状態で見つかりました。古墳は、中世の寺院である東光寺の造営の際に、石室の上部が壊されたと考えられます。



まとくに いのうちくるまづか 史跡乙訓古墳群・井ノ内車塚古墳(長岡京市井ノ内向井芝、公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター調査)

井ノ内車塚古墳は、平坦な段丘上に立地しています。平成27年に「史跡乙訓古墳群」の1基として史跡に指定されました。井ノ内車塚古墳は、全長約39mの前方後円墳で、これまでに出土した遺物などから古墳時代後期の築造と考えられています。

これまでの調査で、後円部に造り出しを持つことや周溝が巡っていること、 章石を持たないことなどがわかっています。また、円筒埴輪や形象埴輪などが出土しています。

今回は、埋葬施設の構造を調べるために後円部の発掘調査を行いました。その結果、埋葬施設が横穴式石室であることがわかりました。ただ、石材が残っていたのは一部だけで、ほとんどの石材は後世に抜き取られていました。このため、石室の正確な規模や構造はわかりませんでした。

しかし、これまでの調査結果から、井ノ内車塚古墳の周辺に分布する芝古墳(京都市)から、井ノ内車塚古墳、井ノ内稲荷塚古墳(長岡京市)へと、この地域の首長の葬られた古墳が変遷していくことがわかりました。



後円部で見つかった横穴式石室の痕跡 (写真:公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター提供)



乙訓古墳群古墳分布図

(8:井ノ内車塚古墳、9:井ノ内稲荷塚古墳、12:芝古墳)



たくさんの埴輪が周溝内から重なって出土しました (写真:公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センター提供)

史跡久津川古墳群・久津川車塚古墳(城陽市平川車塚、城陽市教育委員会調査)

久津川車塚古墳は、大谷川によって形成された扇状地上に立地しています。久津川車塚古墳は、墳丘長約 180 mの前方後円墳で、山城地域最大の古墳です。墳丘は三段に築かれ、二重に周濠が巡ります。これまでに見つかった遺物などから古墳時代中期中頃の築造と考えられています。



久津川車塚古墳の航空写真(上が後円部、下が前方部) (写真:城陽市教育委員会提供)

平成28年度には、それまで史跡であった久津川車塚古墳・丸塚古墳に、新たに芭蕉塚古墳と久世小学校古墳を追加指定し、名称を「史跡久津川古墳群」へと変更されました。

これまでの調査で、久津川車塚古墳の周濠や墳丘の1段目が砂礫で埋まっていることがわかっています。

平成28年度の調査は、平成27年度に確認した西の造り出しと後円部の間(西くびれ部)の調査をおこない、墳丘1段目の葺石が見つかりまた。この付近からは家形埴輪や囲形埴輪、槽形埴輪なども出土しました。近年、前方後円墳のくびれ部の近くでは、水を利用した祀りのようすを埴輪や土製品で表現したものがよく見つかっています。今回、見つかったものも同様のものと考えられます。



滑石製勾玉・臼玉 (写真:城陽市教育委員会提供)

また、造り出しの埋葬施設を一部調査した結果、滑石製の勾玉や臼玉などが出土しました。明治時代に後円部の一部で土砂採取が行われ、 をがもまがたせっかな 長持形石棺や多数の副葬品が発見されました。 その際にも5千点以上の滑石製の勾玉が出土しました。

久津川車塚古墳に葬られた人たちは、滑石製の 玉類を大量に持っていたようです。

まょうしゃま **史跡銚子山古墳 第一、第二古墳**(京丹後市網野町網野、京丹後市教育委員会調査)

銚子山古墳は、全長約198mの日本海沿岸域では最大規模の前方後円墳です。墳丘は、三段に築かれ、葺石と埴輪列を備えています。埴輪などから古墳時代前期末から中期初頭に築造されたと考えられています。

京丹後市教育委員会では、銚子山古墳の整備工事のため、平成26年度から発掘調査をおこなっています。

平成28年度は4か所で墳丘の調査をおこないました。その結果、後円部中央では、墳丘1段目斜面の葺石が良く残っていました。墳丘裾の位置がわかったほか、墳丘1段目の平らなところでは形象埴輪や円筒埴輪の破片がまとまって出土しました。

前方部東側面の調査区では、周濠の外側の堤部分と みられる盛り土を今回初めて確認しました。前方部南 側端部では、墳丘の1段目が、平安時代以降に大きく 削られ、墳丘の盛り土の多くが失われていることがわ かりました。そのため、前方部の形状などのようすを 明らかにするために、今後も続けて調査することにな りました。



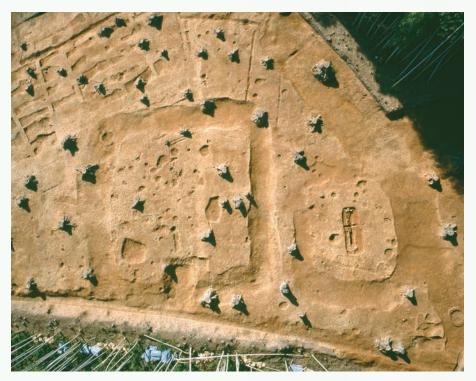
墳丘の発掘調査状況 (写真:京丹後市教育委員会提供)

日本海三大古墳

京都府北部には、銚子山古墳のほかにも、 整子山1号墳(前期後半、全長145 m)、 神明山古墳(中期初頭、全長190 m)とい う2基の大型前方後円墳があります。これ ら3基は日本海沿岸域でも上位3位までの 大型前方後円墳であることから「日本海三 大古墳」と呼ばれています。しかし、なぜ 丹後地域に大型前方後円墳が3基も造られ たのかは、はっきりわかっていません。



埴輪片の出土状況 (写真:京丹後市教育委員会提供)



方墳の検出状況

芝山遺跡は、城陽市の東側丘陵 上にあります。これまでにも、古 墳や奈良時代の掘立柱建物などが 見つかっています。

平成28年度の発掘調査では、古墳4基や埴輪棺3基などが見つかりました。古墳2基と埴輪棺3基は古墳時代中期初めごろのもの、古墳2基が古墳時代後期のものでした。これらの古墳は、芝山遺跡と重なって見つかっている芝山古墳群の一部と考えられます。



埴輪棺の検出状況

中期の古墳と埴輪棺

古墳時代中期初めの古墳は2基とも方墳で、一辺が $9\sim13$ mほどの小さなものです。調査をおこなった埋葬施設の1つからは、副葬品として、青銅鏡1点、勾玉1点、管玉13点が見つかりました。

また、埴輪棺は、円筒埴輪や朝 顔形埴輪を組み合わせて棺とした ものです。埴輪棺の1つは盾と推定 される線刻をした埴輪片で、口を塞 いでいました。ただし、古墳の周溝 からは埴輪は見つかっていないこと から、方墳に埴輪は立てられていな かったと考えられます。

今回、見つかった方墳には、鏡や 玉類などの副葬品があったことや、 前方後円墳の梅の子塚1号墳・2号 墳と同じ丘陵上に築造されているこ とから、在地の有力者の墓であった 可能性が考えられます。

後期の古墳

一方、後期の古墳は2基とも円墳で、直径が11mほどの小さなものでした。どちらも埋葬施設が残っていました。1基は木棺の内部に須恵器を納めているだけでしたが、もう1基は須恵器のほかに鉄刀や鉄鏃なども納めていました。

円墳は、過去の調査で8基見つかっており、これらと一連のものと考えられます。その多くが、木棺を直接、墓穴に埋める方法をとっており、2~8点ほどの土器と若干の鉄製品を副葬するとういう共通点が見られます。



円墳の検出状況

このころ全国各地で横穴式石室 が導入されますが、芝山古墳群で は、従来と同じく、木棺を直接、 墓穴に埋める埋葬方法が続けられ ていました。こうした埋葬方法に 変化が及んでいなかった点で注目 されます。

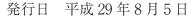


円墳の木棺から出土した須恵器

展示遺跡位置図



「発掘された京都の歴史 2017 木とともに生きる~道具のいまむかし~」展示図録





編集・発行 公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 〒 617-0002 向日市寺戸町南垣内 40-3 TEL.075-933-3877 Fax.075-922-1189 ホームページアドレス http://www.kyotofu-maibun.or.jp 印刷 三星商事印刷株式会社